

見守る

地域の状況を把握すること
は、民生・児童委員の活動の
土台です。どこにどのような
世帯があるか、支援を必要と
する人はいないか、情報を集
めて静かに見守ります。

特に高齢者や障がいのある
人、子どものいる世帯などが
中心です。近所でのあいさつ
や散歩中の交流、買い物先
での声掛けなど、普段の生活
を通してさりげなく地域に気
を配ります。



別居の義母を見守ってもらっています
市外から週に数回は義母の顔を見に来ています。84歳で一人暮らしの義母が心配ですが、近所の民生・児童委員さんが見守ってくれていると思うと安心できます。
幸子さん(仮名・左)と子の妻・桜さん(同・右)

寄り添い、支える

住民同士を結び、孤立をな
くすための取り組みにも力を
入れています。家に閉じこも
りがちな高齢者や子育て中の
人に、地域行事やサロンなど
への参加を呼び掛けます。よ
り健全で自立した生活が送れ
るよう、一人一人の悩みに寄
り添い、そつと支えます。

また、委員だけで取り組む
のではなく、区や老人会ボ
ランティア団体、学校や学童
クラブなどと協力し合い、地
域全体で住民を支える仕組み
づくりも行なっています。



①子育てサロンの運営・協力



②高齢者サロンの運営・協力



③学童クラブへの参加



④シングルシルバーの集い

①②「みんなと顔を合わせられるのがうれしい」「会食が楽しみ」と好評のサロン活動。レクリエーションなどをきっかけに、参加者・ボランティア・スタッフの間に交流が生まれる(運営主体は民生・児童委員を含む有志や自治会などさまざま)③毎週の学習指導や下校見守り、昔遊びなどを通じて子どもたちとの関わりを深めている④75歳以上の人一人暮らしの高齢者を招き、参加者同士の交流や外出のきっかけをつくるイベントも行なっている



合志小で月2回、「赤ペン先生」として2年生の算数や漢字の書き取りの丸付けに協力する委員

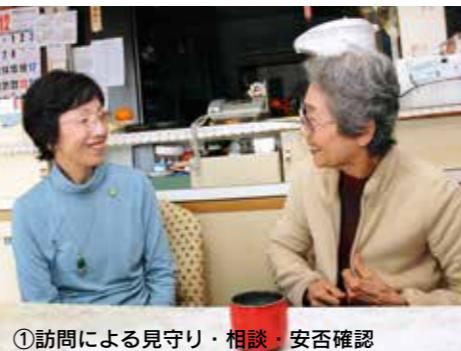
子どもたちが地域の皆さんと顔見知りになることは、子どもたちを地域全体で見守ることにつながります。一人一人のわずかな変化に気付けるよう、こまめに情報交換をしながら学校と地域のつながりを強めていきたいですね。



合志小学校
まつもと せいき
松本 成樹 校長

合志小学校では地域の皆さんに多方面でお世話になっています。中でも民生・児童委員の皆さんには約6年前、2代前の校長のころから学校の花壇の花植え、赤ペン先生としての丸付けや掛け算の九九の聞き取り、子どもたちの登下校時の見守り活動などに協力してもらっています。

子どもたちが地域の皆さんと顔見知りになることは、子どもたちを地域全体で見守ることにつながります。一人一人のわずかな変化に気付けるよう、こまめに情報交換をしながら学校と地域のつながりを強めていきたいですね。



①訪問による見守り・相談・安否確認



②子どもたちの登下校見守り



③一斉見守り運動の計画を練る委員たち

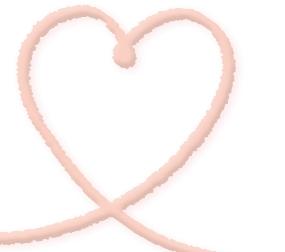


④歳末見守り活動

①一人暮らし高齢者、高齢者のみの世帯などを定期的に訪問。見守り、相談、安否確認などを行なう②子どもたちの安全を守り、顔見知りになる活動の一つ③通学路の安全対策にも気を配る。委員の声をきっかけに通学路のカラー舗装が施された道もある④年末に80歳以上の人一人暮らし高齢者を訪問。小学校や子ども会と協力し、児童からの手紙などを渡す地区もある



民生・児童委員を通じて独り暮らしの高齢者などに配布している「安心ホットライン」。持病やかかりつけ医、緊急連絡先などを記入して保管し、もしものとき、救急隊員などが迅速に対応するために役立てます。



委員の皆さんには高齢者や子どもの見守りなど、少ない人数で幅広く活動してもらっています。熊本地震では避難誘導にも尽力してもらいました。足腰の弱い高齢者や幼い子どもを抱えた人に避難所まで付き添うなど、力を貸してもらつた人も少なくありません。また、委員と区は地域の問題を共有し、補い合う体制をとっています。毎年1回は区の役員会に出席してもらつてきましたが、連携を強化するため、今後は区の行事と絡めながら、福祉的な問題点を互いに認識できる場を増やしたいと考えています。



委員交代の引き継ぎに区長や公民館長が立ち会うなど、委員と区が互いに情報共有し、住民の見守り・サポート体制を強化している地区もあります



上須屋区
として
辻 敏輝 区長